

さんぽ木だより

2013
春号
vol.4

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

梅の花

貧しかった日のことを忘れずに
苦しかった日のことを忘れずに
生きてゆかねばならないと
二人で話すことも
もうなくなった
十七で婚約し
十八で嫁にきた妻も
七十六になった
すべてをおまかせして
生きてゆこう
それでいいのだ
ほのかに匂うてくる
梅の花



館長エッセイ

坂村真民詩墨作品を所蔵されている方に
寄贈・寄託のお願い

真民詩とわたし

お仕えはこれから

いしかわ よう
石川 洋

真民詩を読み解く ③

生きる上での原点

ろくぎょあんしんげん
「六魚庵箴言」

黒鉄ヒロシ先生が描いた
真民マンガをご覧になりましたか？

開館一周年記念・特別企画展のお知らせ
相田みつをの書と詩の世界

寄贈・寄託のお願い

【第四回】坂村真民詩墨作品を所蔵されている方に――

本気
世界が変わると
自分が変わると
変わらなから
また本気が
証候だ
本気な恋
本気な仕事
ああ
人間一度
つがまんことには
鳩着一月氏

坂村真民は、「自分は、詩人であり書家ではない。」ということをいつも言っていました。ですから、自分の詩を自分で鑑賞するために詩墨作品として、書き残したり、所蔵したりすることはしない人間でした。将来記念館を建て、自分の詩墨作品を展示して、見てもらたために作品を残すことなどはまったく考えていませんでした。

しかし、愛読者の方から、頼まれれば、その方の好きな詩を、色紙や書として書いてあげるとは、厭わず喜んで書いてあげるという人間でした。

そういう訳で、坂村家には、ほとんど真民の詩墨作品は残っていませんでしたが、愛読者の方に書いてあげるために、何枚か書いた中で一番良い書を差し上げ、残りの中に自分で気に入った書があれば、押し入れにしまっておくこともありましたので、それらを今回記念館で展示するため、額装して祇部町に寄付をさせていただきました。

しかし、その数では、展示替えをする程の数には満たず、作品を所蔵されている多くの方々のご協力により、寄贈もしくは寄託していただき、やつと数を確保することが出来たのです。

けれども、詩墨作品は、展示することにより、劣化していきます。これを防ぐためには、一定期間収蔵庫で休ませる必要があります。そのためには、展示替えに必要な作品を、まだまだ収集する必要があります。今回のお願いとなつた訳です。特に、代表的な作品、例えば、「わたしの詩」「念ずれば花ひらく」「タンポポ魂」「本気」等は、いつも展示をしておく必要があります。代替作品が無いと休ませることができません。今回はまず、こういった代表的な作品を所蔵されている皆さんにお願いをしたいと思います。

是非お手元の、真民の詩墨作品を、記念館に寄贈していただけないでしょうか。やはり自分のものとして、家に置いておきたいという方には、「寄託」という方

法で、記念館にお預かりする方法があります。「寄託」とは、作品の所有権は保持したまま、その作品を一定の期間、記念館に預け、記念館で保管し、それを展示することを容認する一種の契約形態です。もちろん、必要があれば、いつでも返却いたします。（ただし、展示中の作品については、その期間は待つていただくことがあります。）

「自分の家で保管するよりは、きちんと管理してくれる記念館に預ける方が安心できる。」「個人で所蔵することより、記念館で多くの人に見てもらうほうが作品の有効活用になる。」と言って、寄託して下さった方もいらっしゃいます。

将来的には、貴重な作品については、記念館で購入することも検討しなければなりませんが、財政的に厳しい町の現状では、この「寄託」による方法で展示作品の数を増やしてゆくことを当面考えております。

今後のことを考えると、全国の真民ファンの方々に、広く呼び掛けて、所蔵されている真民の詩墨作品（色紙は除く）を寄贈・寄託していただけるように、是非ともお願いいたします。どうぞ、お知り合いの方で、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、記念館までご連絡下さいますようお願いいたします。

社会奉仕に身を捧げてきた石川洋さんに、真民さんとのご縁について書いていただきました。

お仕えはこれから 末弟 石川 洋 (83歳)

プロフィール

昭和5年、栃木県生まれ。宇都宮旧制中学校卒業。キリスト教の家庭に育ち、牧師を志すが、17歳の時、一燈園創始者・西田天香氏に出会い、師事。教育・福祉・経営等各方面での講師として活躍。人間の本质に迫る講演は感動と反響を呼んできた。著書多数。



▲京都・常照寺にある「念ずれば花ひらく」の一番碑



▲淡路・八淨寺にある碑。右から岩坪真弘師、真民さん、石川さん。石は中国の奥地から石工が掘り出してきた名石

真民先生とのご縁を頂きましたのは、先生五十代の後半、小生二十代後半であります。時代は戦後の裸からの新生に燃えた時代でありました。小生は旧制中学校の最後の卒業生であり、無一物の奉仕集団、一燈園に身を投じ、早い頃から先生の存在をしり「ペルソナ」誌に心をひかれた青年期からのご縁を頂いていました。

ある日、大辞典の帯の裏に揮毫された「念ずれば花ひらく」の書が送られて来ました。縁あつて尊敬していた京都西陣の伊豆蔵福治郎氏（聚楽帯社長）の目にとまり、「この言葉を碑にして多くの人の心を開きたい」と申され、早速先生のお許しを頂き、原寸の切石に刻まれ、

大地から生れ出た碑が、京都鷹ヶ峰、常照寺の山内に建てられました。その後、四つの碑を建立して下さいました。この徳人の第一号の基礎づくりを拝し、忘れてはならないと礼拝を申し上げています。

真民先生との更なるお導きは「母念」の碑の建立にあります。私が三十五歳の時、妙心寺の管長である山田無文老師の侍者としてニューギニアの遺骨収集に参加させて頂きました。山野、海原に放置されていた無惨なるご遺体ですが、何か安らぎを覚ええました。

帰国して、真民先生にご報告しました。先生は持参をした海辺の美しい貝を手にながら「母念の碑を建てたらよい」とご指示を下さり、「大きな碑がいい、さわつたら病気が治るような石がよい。字は私が書こう」といわれました。〃はい〃と返事をしたものの、そんな石がどこにあるのか、つかみどころのないご指示に動けないまま何年も何十年もたちました。禅門答どころではありませんでした。

しかし、やがてその碑が三碑建てられることになりました。一つは、淡路の八淨寺（岩坪真弘師）、二つ目は、栃木県大田原市の光真寺の幼稚園（黒田光純師）、三つ目は、中国上海の（株）エース

（新川柳作氏）の三ヶ所に建立させて頂くことが出来ました。先生は淡路、八淨寺の開所式には参列下さり、天高く舞う数羽の鳥を仰ぎ見、生きていてよかったと手を合わされました。真の親孝行はこれからです。ご高導を！

常照寺の開眼式をすまし、真民先生と少し山道を歩きました。その時先生がもらされた言葉がありました。「石川さん、私は講演をやめる」停年を前にされての決意に、私は息をのみました。

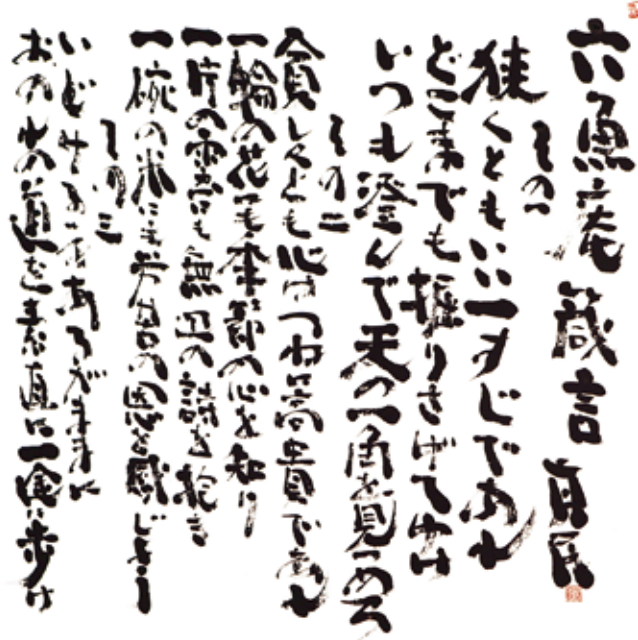
「念ずれば花ひらく」の根底に「捨」があることをしり、息をのみました。春が来れば花は咲くのでありますが、「捨」と「証」のあかし人であることを忘れてはならないのです。（洋）——ご縁感謝です。——



▲真民さん夫妻と娘・真美子さん、そして石川さん（真民さんと石川さんの講演会が行われた東京・紀伊國屋ホールにて）

生きる上での原点

「六魚庵箴言」



「六魚庵箴言」

その一

狭くともいい
一すじであれ
どこまでも
掘りさげてゆけ

いつも澄んで
天の一角を
見つめろ

その二

貧しくとも
心はつねに高貴であれ
一輪の花にも
季節の心を知り
一片の雲にも
無辺の詩を抱き
一碗の米にも
労苦の恩を感じよう

その三

いじけるな
あるがままに
おのれの道を
素直に
一途に
歩け

この詩は、坂村真民の第一詩集「六魚庵天国」の巻頭に載せられている詩です。

昭和26年に発行されたこの詩集は、坂村真民が戦後九州の熊本から四国の三瓶町にやつてきた昭和21年5月から、昭和25年3月までの4年間の三瓶での生活と家族のことを詠った詩を取めたものです。

この詩は、真民が詩人として生きていくうえでの戒めとして、また人間として生きていくための原点として、書いたものです。詩人としての出発点となる、第一詩集の巻頭に載せ、詩人としての決意と自分自身の生き方を読者に対して、宣言したものとも言えます。

そして坂村真民のすごいところは、こうした生き方をずっと守り続け、生涯を貫いたところにあると言えます。

私がこの詩で一番好きなのは、「貧しくとも心はつねに高貴であれ」というフレーズです。

やはり、人間の生き方として、経済的には貧しい生活を強いられたいとしても、心はいつも豊かで、高貴な気持ち忘れずに持ち続けて生きてゆきたい、と思わせてくれる詩ではないでしょうか。

詩集「六魚庵天国」の中には、三人の子どもと妻を養うために、「何もかも我慢して、明日も働こう。どんなに非難され

ようとも、強い人間になりたい。」(六魚庵哀歌)より)と悩み苦しむ、真民の正直な気持ちを詠った詩がたくさんあります。

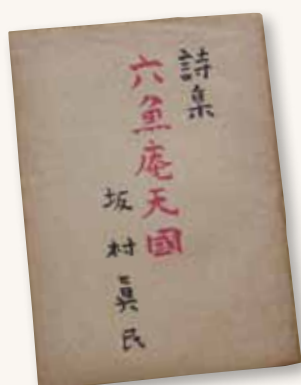
真民は、後年、詩作にますます、悩んだときは、いつも「六魚庵天国」の時代のことを想いだし、自分の生きる原点としていました。坂村真民の長い人生を考えるうえで、この「六魚庵箴言」は、その原点の中でも、一番重要な位置を占めるものなのです。

(注1)

「六魚庵」とは、坂村真民の家族が住む家のことです。六匹の魚とは、真民夫婦に三人の子供と朝鮮時代に生まれてすぐ亡くなった茜ちゃんを含めて、六人の家族です。

(注2)

「箴言」とは、戒めの言葉。教訓の意味を持つ短い言葉。(「大辞林」Web版より)真民は、自分自身に対する戒めの言葉として使っている。





坂村真民

念ずれば花ひらく

画・文
黒鉄ヒロシ

真民さんの本質を理解して
引き受けてくださる

歴史上の偉人を数多く描いてきた黒鉄ヒロシさん。「坂村真民さんを漫画で描いて欲しい」とお願いした時、黒鉄さんは真民さんのことをご存じありませんでした。

た。そこで、真民さんの初期詩集と随筆三部作などをお送りして、超多忙のさなかにも関わらず、読んでいただくことになりました。

なかなかお返事をいただけないまま季節が移り変わろうとしていた初冬のある日、描いてくださるとの嬉しいお返事。資料を読み調べ、素晴らしい人物だと納得し、作品の展開を考えて下書きもした上で、受諾して下さったようでした。

「真民さんはどうしてあそこまで境地に辿り着いたんだろう」という黒鉄さんの言葉が印象的でした。

黒鉄ヒロシ先生が描いた 真民マンガをご覧になりましたか？

真民さんの詩は平易な言葉で書かれていますが、その世界は深くて高遠です。老若男女の多くの人に理解してもらいたいと、黒鉄ヒロシさんに描いていただいた真民マンガについてご紹介しましょう。

真民さんのエッセンスが
詰まった内容

黒鉄さんが描いた真民マンガは、真民さんの真髓がコンパクトに詰まっています。この世の真理をつかむべく、また本当の生き方をすべく、悪戦苦闘した挙げ句に真民さんが掴み取った世界を、ユーモアにまぶしてアーティスティックに描きあげています。



『坂村真民 念ずれば花ひらく』
画・文／黒鉄ヒロシ

発行日／平成24年3月11日
サイズ・ページ数／
A6サイズ 72ページ
価格／500円(税込)
発行／株式会社リビング新聞社
販売／坂村真民記念館、
愛媛県内主要書店、
アマゾンで発売中

小さな子どもには難しいかもしれませんが、もともと真民さんの心の裡というのは安易に理解できる世界ではなく、その一部分一部分を切り取ってやさしい言葉にしたものを、私たちは享受して、心の支えにしているのではないのでしょうか。

宗教も思想も歴史も文学にも造詣の深い黒鉄先生ならではの真民マンガ。まだ、この本を読んでいない方は、ぜひ手にとってみてください。

相田みつをと 坂村真民の世界

～「いのち」を見つめつづけて～

期間

3月10日(日)～5月12日(日)

二人の魂と魂がぶつかり合うような作品に出会えます

相田みつをと坂村真民には、仏の教を学ぶうえで共通の師とも言える人がいました。仏教学者であり、「真如会」を主宰している紀野一義先生です。

紀野先生の著書『いのち』(昭和45年10月、読売新聞社刊)の中に、「凡夫、凡夫に出会うの記」という題名で、相田みつをとさんのことが書かれています。

この本が昭和62年にPHP文庫として新たに出版された時、坂村真民が解説を書いています。その中で、真民は相田さんとの出会いや人となりを次のように書いています。

「わたしは、この中のどの話も好きであるが、とりわけ終わりの方の『凡夫、凡夫に出会うの記』が好きである。わたしも凡夫で終わりたい人間だからかもしれないが、ここに出てくる相田さんを知っているからである。

紀野先生主宰の『真如会』昭和45年結集は、8月21日から23日まで鎌倉の円覚寺で行われた。その時わたくしは『詩と真実』という題で講演したのであるが、そのあとの質疑応答の時間で、詩の文学性、宗教性について議論が出、なかなか解決しなかったが、相田さんがとてもいいまとめ役をして下さった。

その時初めて相田さんの人となりに触れたのであるが、いま相田さんは書家として詩人として広く知られ、特にあの洒脱無縫の書は、多くの人に支えとなり励まし

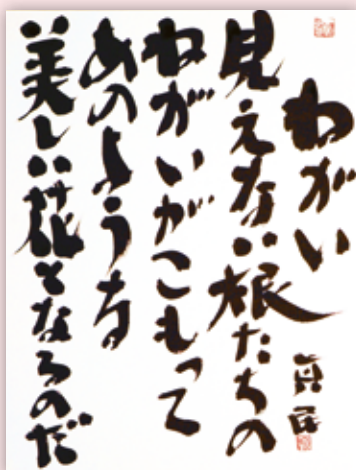
となり、賞賛され愛好されている。わたしもまた凡人凡夫の一人として、野人野草の詩を作り続け、世を終わりたいのである。』(『いのち』PHP研究所発行より)

紀野先生を通じて、二人は交流していたものと思われ、昭和45年の円覚寺で撮った二人の写真もあります。長男の相田一人・相田みつを美術館館長の話では、相田さんはこの頃より「詩国」を取って読んでいたということです。

書の世界から詩を書いた相田みつを。詩の世界から書を書いた坂村真民。共に仏教の世界を深く学び、み仏の教を根底に詩を書き続けました。

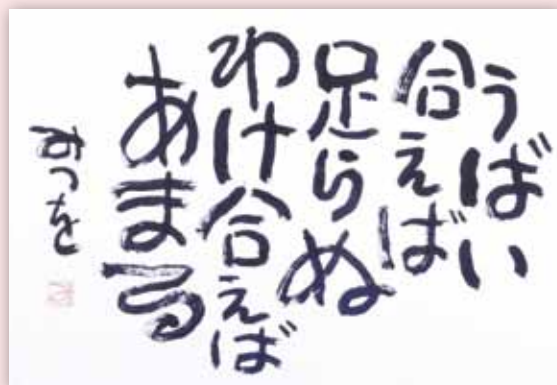
「人間として、いかに生きるか」を常に自分自身に問い続け、妥協を許さず、弱い人の立場に立ち、経済的に恵まれない時代を一生懸命生き抜いた、二人の詩人の共通した生き方。そこから生れてくる詩は、人間の生き方や生きる苦しみ、生きる喜びを、それぞれの感性から紡ぎだされる言葉で、表現しているのです。

そういう二人の代表的な作品を一堂に集めた、今回の展示は、二人の魂と魂がぶつかり合う、詩と書の世界を十分味わっていただけるものになっております。どうか、皆様お誘い合わせのうえ、ご来館くださいますよう心からお願いいたします。



坂村真民

二人のコラボを
お楽しみ下さい



相田みつを



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

軽いもの
重荷になるものは
もう何一ついらぬ
年をとると
すべて軽いのが
何よりの願いだ
軽い布団
軽い服
軽い履物
軽い食事
ただ軽口の人だけは
敬遠しよう
そのほかはみな
軽いのが一番いい



医療法人 誠志会
砥部病院
TOBE HOSPITAL

〒791-2114 愛媛県伊予郡砥部町麻生40-1 TEL089-957-5511



釈尊のお言葉の中で、心にしみて忘れられないものがある。

大海の中に一つの真珠が落ちたら、何年かかってもよい。

大海の水を柄杓で汲みあげるのだ。

必ず落ちた真珠は見つかるのだ。

と、本日拝聴した時のメモ書きを見つけ、感動しました。

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006

<http://www.nagiso.co.jp/> メール kao@nagiso.co.jp

最新刊!

定価=3675円(税込)

決定版・詩墨集!



筆の詩墨の花

サンマーク出版

坂村真民の本

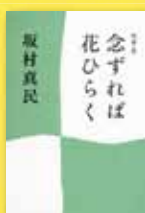
ねがい

(特別版詩集!)

復興への
ねがいをこめて—
定価=998円(税込)

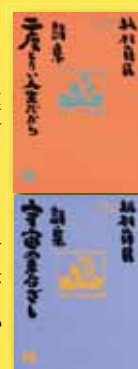
随筆集 念ずれば花ひらく
随筆集 めぐりあいのふしぎ
随筆集 愛の道しるべ

定価=各1890円(税込)



いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 二度とない人生だから
詩集 宇宙のまなざし



詩集 念ずれば花ひらく

刊行後14年で
9.3万部の
超ロングセラー!

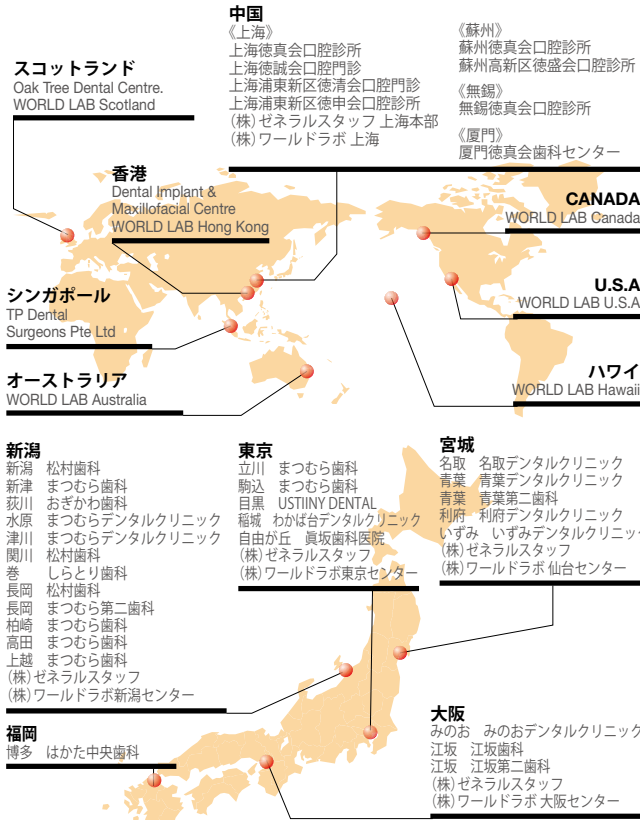
定価=各1050円(税込)

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 <http://www.sunmark.co.jp>
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

医療法人 徳真会グループ

「医療は人なり」の診療概念をもとに患者第一主義の歯科医療グループです。
国内外34ヶ所の歯科医院を展開し、年間80万人の治療に携わっております。



新潟

松村歯科 新潟診療所
まつむら歯科 新潟診療所
おぎかわ歯科
まつむらデンタルクリニック 水原診療所
まつむらデンタルクリニック 津川診療所
松村歯科 関川診療所
しらとり歯科
松村歯科 長岡診療所
まつむら第二歯科 (長岡市)
まつむら歯科 柏崎診療所
まつむら歯科 高田診療所
まつむら歯科 上越診療所

☎025-201-1885
☎0250-24-6688
☎0250-23-4880
☎0250-62-2151
☎0254-92-0150
☎0254-64-1201
☎0256-72-1771
☎0258-28-4108
☎0258-31-7202
☎0257-20-0310
☎025-521-6780
☎025-522-6001

宮城

いすみデンタルクリニック
青葉デンタルクリニック
青葉第二歯科
利府デンタルクリニック
名取デンタルクリニック

☎022-253-1588
☎022-348-2125
☎022-348-1085
☎022-766-4130
☎022-381-0921

大阪

江坂歯科
江坂第二歯科
みのおデンタルクリニック
まつむら歯科 駒込診療所
まつむら歯科 立川診療所
USTINY (アスティニー)
わかばデンタルクリニック

☎06-6386-0233
☎06-6310-7660
☎072-749-2080

福岡

はかた中央歯科

☎092-892-5134

中国

厦門徳真会歯科センター
上海徳真会口腔診所
上海徳誠会口腔門診
上海浦東新区徳清会口腔門診
上海浦東新区徳申会口腔診所

☎86-592-2290088
☎86-21-5208-0208
☎86-21-6340-0290
☎86-21-5030-7858
☎86-21-6856-1040

蘇州徳真会口腔診所
蘇州高新区徳盛会口腔診所
無錫徳新会口腔診所
Branemark Osseointegration Center

☎86-512-6763-5720
☎86-512-6803-2501
☎86-510-85281121
☎86-21-6289-8101

株式会社ワールド・ラボ

新潟センター
大阪大阪センター
仙台センター
東京センター
WORLD LAB U.S.A.
Ultimate Styles Dental Laboratory
徳真会歯科制作(上海)有限公司

☎0250-23-2009
☎06-6190-2660
☎022-348-1206
☎03-6431-9239
☎1-949-727-0121
☎1-949-727-0822
☎86-21-5270-1325

株式会社ゼネラルスタッフ

本 社 025-201-1183
新津本部 0250-25-2016
東京本部 03-6431-9809
大阪本部 06-6310-6066
上海本部 86-21-6340-0316



医療法人
徳真会グループ

徳真会 検索 
www.tokushinkai.or.jp

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の
会は、会員の皆様と記念
館との交流を図り、記念館
を共に支え、育てていくこと
を目的とした会です。入会
された方には会報と、低部
焼干支や真民グッズなど
の記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください [坂村真民記念館 友の会](#) [検索](#)

〈編集後記〉 3月10日から始まる開館一周年記念特別
企画展は、「相田みつとと坂村真民の世界」です。人間
として、いかに生きるかを常に問い続け、妥協を許さず
一生懸命生き抜いた二人の詩人の詩と書とを展示しま
す。是非お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、どうぞ
記念館にお出かけ下さい。(西)

タンポポだより vol.4 春号

平成25年3月1日発行 表紙写真：西澤孝一
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕
開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり
※「相田みつとと坂村真民の世界」は入館料
一般 当日券700円(前売券550円)